

頼末武史 主任研究員

私たちの身近にある海岸に、どのような生き物がいるかご存じでしょうか。

潮が引いた時に海岸に行く
と、フジツボや貝、イソギンチ
ヤクなど、多種多様な海の生き
物を見ることができます。コン
クリートで護岸された神戸港の
岸壁にも、フジツボや貝、ホヤ
の仲間などがびっしり付いてい
ます。

これらの中には、外国から運
ばれてきた外来種も少なくあり
ません。またこれらの生き物は、



船や養殖の網などにもくっつい
てしまい、人間の生活に悪影響
を与え「厄介者」という側面
もあります。しかし、外来種で
も厄介者でも、それぞれを「生
き物」としてしてみると、その
美しさと懸命に生きる様子に感
動します。

さて、このような海岸の生き
物には、「幼生」という成体と
は全く姿かたちが異なる時期が
あり、広大な海の中を漂って
「旅」をします。海を旅した幼
生は、再び海岸に戻り、成体に
なっていくきます。このような幼
生の何割かは、生まれた場所と

は異なる場所にたどり着くこと
になります。

海岸の生き物の多くは、成体
になると移動能力が格段に落ち
てしまうので、幼生が旅をする
ことが、種としての生息域を維
持したり、環境変化に応じて生
息域を変化させたりすることに
とても重要な役割を果たしてい

神戸港の岸壁に付着する
イソギンチャクやホヤ類



ます。

海流にもよりますが、数十
数百キロも旅をすると考えられ
る種類もいます。幼生は1ミリの
も満たないとても小さなものが
多く、海流に逆らって泳ぐこと
はできません。その代わりに、
鉛直方向に移動して水深を変え
ることで、異なる向きの海流を



神戸港で採集された
貝類の幼生

巧みに使って海岸に戻ってくる
種や、フェロモンなどの匂いを
頼りに生息に適した場所を探し
ている種など、それぞれの種が
生息環境にたどり着くための巧
みな戦略を持っていることが知
られています。

私は顕微鏡を使わないと見え
ないような小さな幼生が、広大
な海の中を懸命に旅し、「種」
をつないでいることを知り、驚
きと感動を覚えました。海を見
た時に、身近な海の生き物と海
を旅する幼生に思いをはせてみ
てください。

人と自然の博物館では、20
21年10月12日～22年1月7日
まで、身近な海洋生物に関する
展示特別企画を開催します。ご
興味がある方はぜひお越しくだ
さい。

ひとはく
研究員
だより

身近な海の生物と幼生

懸命に生きる姿に感動